第八講　『王文成公全書』「文録二」／『論語』・『論語集註』・『論語古義』

一　次の文章を読んで、後の問に答えよ。但し設問の関係で送り仮名を省いた部分がある。

自三人之失二其所レ好、仁之難レ成也久矣。向吾成之在二郷党中一、刻厲自立、衆皆非笑以為二迂腐一。(1)成之不二為少変一。僕時雖下稍知二愛敬一、不中従レ衆非笑上、然(2)尚未レ知二成之之難レ得如レ此也。今知二成之之難レ得、則又不レ獲二朝夕相与一。(a)豈非二大可レ憾歟。修レ己治レ人、本無二二道一。政事雖レ劇、(b)亦皆学問之地。諒吾成之随在有レ得。然何従二一聞至論一、以洗二凡近之見一乎。愛、莫レ為レ助。近為二成之思一、進学之功、微覚二過苦一。先儒所謂志レ道懇切、固是誠意。然(3)急迫求レ之、則反為二私己一。不レ可レ不レ察也。日用間、何莫レ非二天理流行一。但此心常存而不レ放、則義理自熟。孟子所謂勿レ忘勿レ助。深造自得者矣。学問之功、何可レ緩。但恐二著レ意把持振

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

作（さく）センコトヲ一。縦（たと）ヒ復タ有リテレ得ルレ居ルモレ之ニ、4恐ラクハ不ランレ能ハレ安ンズル耳。成之之学ハ、想フニ亦正ニ不ランモレ如レ此、以テスルニ二僕ノ所ヲレ見ル、微シク覚ユ三其ノ有ルヲ二近似スル者一。是ヲ以テ不二c敢不ンバアラレ尽サ。

（王陽明「文録一」による）

〔注〕○失二其所レ好――精神的道義を好むことを失う。
○成之――王陽明と同郷の篤学の青年で徐守誠（じょしゅせい）のこと。成之はその字（あざな）。○郷党――郷里。
○刻厲――刻苦勉励。○非笑――誹（そし）り笑う。○迂腐――迂遠で役立たず。
○学問之地――学問を実践する現場。○随在――随所。○凡近之見――平凡で卑近な見解。
○進学――学問を進める。○功――努力。工夫。○過苦――激しすぎる。
○私己――個人的な思惑。利己。○日用――日常。いつでも。○天理――天道。
○流行――あまねく行き渡る。○不レ放――放縦にならぬこと。
○勿レ助――効果を上げるべく無理に助長するな。○深造――深く達する。
○著レ意――意識しすぎて力が入ってしまう。○把持振作――緊張を持続して心を奮い起こす。

問一　波線部ａ「豈」ｂ「亦」ｃ「敢」の読みを、それぞれ平仮名で記せ。

ａ＝

ｂ＝

ｃ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　傍線部１「成之不㆓為少変㆒」は、（ア）だれが、（イ）だれの、（ウ）どういうことに対してそうしたというのか、説明せよ。

（ア）

（イ）

（ウ）

問三　傍線部２「尚未㆑知㆓成之之難㆑得如㆒㆑此也」を書き下し文にせよ。

問四　傍線部３「急迫求㆑之、則反為㆓私己㆒」を現代語訳せよ。

問五　傍線部４「恐不㆑能㆑安耳」は何を心配しての発言か。この点に留意して説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　筆者の考える「学問」のあり方とはどのようなものか。本文の内容を要約しながら百五十字以内で述べよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二　次の文章を読んで、後の問に答えよ。ただし、設問の関係上、返り点・送り仮名を付していないところがある。また、B、Cの文章が、Aの文章についての解説となっていることに注意せよ。

A　司馬牛問レ仁。子曰、1仁者其言也訒。曰、其言也訒、斯謂二之仁一已乎。子曰、為2之難。3言レ之得レ無レ訒乎。

（『論語』顔淵篇）

B　訒、忍也、難也。仁者心存而不レ放、故其言若レ有レ所レ忍而不二易発一。蓋其4徳之一端也。夫子以二牛多言而躁一、故告レ之以レ此。牛意仁道至大、不三但如二夫子之所レ言。故夫子又告レ之以レ此。蓋心常存、故事不レ苟。5事不レ苟、故其言自有下不二得而易一者上。

（朱熹『論語集注』顔淵篇）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ｃ

仁者専ラ務メ㆓力行㆒ニ、而不㆓以㆑テ易ヲ為㆑サ之ヲ。故ニ其ノ言不㆑得㆑無㆑訒。苟クモ易㆓ニセバ其ノ言㆒ヲ、則チ無㆓シ由リテ以テ入㆑ル徳ニ矣。

（伊藤仁斎『論語古義』顔淵篇）

〔注〕○司馬牛――子の門人。　○易発――簡単に発する。　○躁――さわがしい。

問一　傍線部１「仁者其言也訒」を書き下し文にした場合、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

a　仁は其れ訒なりと言ふ。
b　仁は其の言や訒なり。
c　其の言に仁たる者は訒なり。
d　其の言に仁たるや訒なり。
e　仁者は其の言や訒なり。
f　仁者は其れ訒なりと言ふ。

問二　傍線部２「之」は何を指すか。最も適切なものを次の中から一つ選べ。

a　言　　b　訒　　c　仁　　d　問

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　傍線部３「言之得無訒乎」中の「訒」とはどのような意味か。最も適切なものを次の中から一つ選べ。

a　何事も軽々しく行わず言葉もたやすく発しない。
b　仮定による発言をせず確信のあることのみを話す。
c　心の中に常に仁愛を持ち慎重に事にあたる。
d　ささいな事に拘泥せず堂々とした態度をとる。

問四　傍線部３について、子が「言之得無訒乎」と述べた理由を、Cの文章の見解に従って解釈した場合、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

a　言葉にし難いことは仁ある行為とはいえないから。
b　言葉が軽薄では仁ある人とは見なせないから。
c　仁ある人は実行を重んじ軽々しくは発言しないから。
d　おしゃべりで慎みがないのでは君子とはいえないから。

問五　傍線部４「徳之一端」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

a　仁という徳につながる正しい道。
b　仁という徳を知るための重要な要素。
c　仁という徳へと至る糸口の一つ。
d　仁という徳を成し遂げる目的の一つ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　傍線部５「事不苟、故其言自有不得而易者」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

ａ　何事も軽々しく行わないので、自然と言葉も軽率ではないようになるのである。
ｂ　仮定で物事を行うことがないので、知らぬうちに安易な言葉を吐かなくなるのである。
ｃ　事を一時しのぎに行わないので、言葉の中には変わらぬ安定感が存するのである。
ｄ　いやしい事を行わないので、自分の言葉が落ち着いたものとなるのである。

問七　Ｃに述べられた主張として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

ａ　徳へとつながる道を行くには、行動が伴った実のある言葉を大切にせざるを得ない。
ｂ　行動と言葉に偏りがなくなって、はじめて徳を体現する人と言うことができる。
ｃ　実践ばかり重んじて言葉に思い至らないようでは、徳のある人物にはなり得ない。
ｄ　軽率にものを言い実践に努めないようでは、徳へとたどりつくことはできない。

問八　次の文章はＡの文中の「子」に関するものである。文中の空欄ａ〜ｃに入る語句を考えて補充せよ。

「子」は、［ａ］と呼ばれて尊敬される春秋時代の思想家で、名は［ｂ］、字は仲尼といった。「子」は、徳を修めて君子となる道を説き、［ｃ］の祖とされる。

ａ＝　　　　　ｂ＝　　　　　ｃ＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第八講

① 「務メテ㆓其ノ小㆒ヲ、而忘ルルモ㆓其ノ大㆒ヲ、亦不可也。」の傍線部を送り仮名も含めて平仮名で訓読せよ。

② 「牛ハ不㆑能㆑生㆑ム馬ヲ。」の傍線部の読みを記せ。

③ 「不敢不拝。」は、「あへてはいせずんばあらず」と読む。この読み方に従って返り点をつけよ（送り仮名は不要）。また、現代語訳せよ。

注　拝…お辞儀をする。

不　敢　不　拝　。

〔現代語訳〕＝

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第八講】

〔模範解答〕

一

問一　a＝あに　b＝また　c＝あへて

問二　（ア）成之〔徐守誠〕　（イ）郷里の（多くの）人々
（ウ）懸命に学問に励むことを役立たずだと誹り笑うことに対して、自分の姿勢を全く変えなかったということ

問三　尚ほ未だ成之の得難きこと此くのごときを知らざるなり。

問四　急激に切迫して学問を求めようとすると、かえって個人的な思惑にとらわれてしまう。

問五　成之が、学問を体得した境地に達したとしても、力が入り過ぎて、また緊張して心を奮い起こしてその状態に満足できないのではないだろうかという心配。

問六　成之が郷里で学問に励んでいることは素晴らしいが、激しすぎる傾向がある。学問の努力を怠ることはできないが、急激に学問を求めると、かえって個人的な思惑にとらわれてしまうので、常に誠意を持って学び続け、正しい道理が自然と熟すれば、深く学問に達することができる。よって、無理に助長すべきではない。（百四十四字）

二

問一　e　問二　c　問三　a　問四　c

問五　c　問六　a　問七　d　問八　a＝孔子　b＝丘　c＝儒家

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〔現代語訳〕

一

人が精神的道義を好むことを失ったことから、仁を体得することが難しくなって久しい。先ごろ私と同郷の篤学の青年の成之は郷里にいて、刻苦勉励し立派な人物になったが、郷里のみんなが誹り笑って迂遠で役立たずだとみなした。成之はそのために少しも変わることがなかった。私は当時少しずつ敬愛しはじめていたので、みなと一緒に誹り笑うことはしなかったが、だが、やはりまだ成之が得難い人物であるのがこのようだとまではわかっていなかった。今は成之が得難い人物であることはわかっているが、それでも朝晩一緒に過ごすことはできない。なんと大いに残念なことではないか。自己の修養と人々を治めることは、もともと別々のものではない。政治は（変化の）激しいものであるが、また（政治は）すべて学問を実践する現場である。実に成之ならば（政治の）随所で（学問的に）得ることがあるだろう。しかしどのようにして一度筋の通った議論を聞いて、平凡で卑近な見解を洗い流すことができようか。残念だなあ、（成之の学問を）助ける者がいないのは。この頃、成之のために思うのだが、学問を進めようとする努力が、少し激しすぎると感じている。昔の儒学者が言うように学問に打ち込む懇切丁寧というのは、もとより誠意である。しかしながら急激に切迫して学問を求めようとすると、かえって個人的な思惑にとらわれてしまうと。（この言葉を）深く考察するべきである。日常にあるもの、（それらはすべて）天道があまねく行き渡ったものである。ただこの心〔＝学問を志す気持ち〕を常に保って放縦にならないようにすれば、正しい筋道が自然と熟成されるのだ。孟子が言うように「忘れるな、効果を上げるべく無理に助長するな」である。深く達して自然と体得するものなのだ。（だからといって）学問の努力は、どうして緩めることができようか、いや、できない。ただ意識しすぎて力が入ってしまい緊張を持続して心を奮い起しすぎるのを（私は）心配するのだ。（頑張りすぎると）たとえ学問を体得した境地に達しても、きっと（その状態に）満足することができない（ことを、私は心配する）のだ。成之の学問は、（私が）思うにまさにこのようなものではないが、私が見るところによると、これに近いものを感じるのである。こういう訳で（成之にどうしても忠告の言葉を言い）尽くさないわけにはいかない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二

Ａ　司馬牛が（孔子に）仁について質問した。孔子が言うには、「仁徳のある者は言葉をひかえる」と。（司馬牛がまた）言うには、「言葉がひかえめであれば、それを仁というのでしょうか」と。孔子が言うには、「仁を実践することは難しい。ものを言うことをひかえないでおれようか」と。

Ｂ　訒は我慢することであり、迂闊にしないことである。仁徳のある者は心の中に（本心を）とどめて思うとおりにしようとせず、よってその言葉は我慢することがあるようで簡単に発しない。思うにそれは仁という徳へと至る糸口の一つである。先生（＝孔子）は司馬牛が言葉が多くて騒々しいので、だから司馬牛にこのように告げたのだ。司馬牛が思うには仁の道はとても偉大で、ただ先生が言うような（言葉をひかえめにするだけの）ものではないと。だから先生はさらに司馬牛にこのように告げた。思うに（仁徳のある者は）心を常に保っていて、だから何事もいいかげんにはしない。何事も軽々しく行わないので、自然と言葉も軽率ではないようになるのである。

Ｃ　仁徳のある者はひたすら実践に努めて、簡単に物事をなさない。だからその言葉はひかえめでないことはできない。もし仮にその言葉を簡単に発したならば、徳にたどりつく手段がなくなる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説　第八講

〔解説〕

① 「亦」は副詞で「まタ」と読む。

② 「不能」の読みは「あたハず」。「できない」という意味。読みが頻出。

③ 返り点を間違えた人は、解答をよく確認すること。「不敢不〜」は「どうしても〜しないわけにはいかない」という意味。これを丸暗記しなくても、「不敢〜」が「決して〜ない」、「不〜」が「〜しない」、否定は「下を否定する」ということから、「〜しないことは決してない⬇どうしても〜しないわけにはいかない」と、直訳からわかる。

〔解答〕

① また　② あたはず〔あたわず〕

③ 不㆓敢不㆒㆑拝。

〔現代語訳〕どうしてもお辞儀をしないわけにはいかない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。